



環境教育学会 関西支部通信

第6号

### 関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方で環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費（1年分）をいただきましたら、ワークショップの案内葉書と ECOMAILを送らせていただきます。

（通信費振込先……郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部）

## 第11回関西ワークショップ （お知らせ）

日時 7月13日（土）pm. 2:30-5:00

場所 大阪教育大学天王寺分校1階12教室  
（JR環状線寺田町駅下車西へ徒歩3分）

話題提供 谷口文章氏（甲南大）

「自然概念と環境倫理」

VTR「淡路島モンキーセンターからの報告  
——奇型ザル問題を追って——」

連絡先 大阪市天王寺区南河堀町4-88  
大阪教育大学環境科学教育研究室  
電話 06-771-8131(417) 鈴木善次

世話係 赤尾整志（GEC）・鈴木

日本環境教育学会

関西支部

世話人募集

（予告）

関西 ECOMAIL 第1号  
1ページに記載されている  
ように、関西支部発足以来  
仮世話人会が暫定的に支部  
運営にあたってきました。  
その後1年が経過し、正式  
に新世話人会をつくること  
が適切と思われる。つき  
ましては、世話人をお引き  
受け下さる会員を募集しま  
す。正式な募集告知ははず  
れ学会通信で行なわれます  
が、お引き受けいただける  
方は、支部事務局（大教大  
鈴木研究室 06-771-8131  
（内線 417））までお申し出  
下さい（お問い合わせも）。

# 日本環境教育学会 第2回全国大会を終えて

5月18日、19日の二日間にわたって、全国から会員、非会員合わせて500名にもものぼる人々が大阪に集まってくださった。初日の宮本先生の特別講演のときから会場は人であふれ、皆様にご迷惑をおかけしてしまい申し訳なく思っている。講演の内容も参加者に感銘を与えられた。ここで改めてお礼申し上げたい。シンポジウムもパネラーの方々を初め、フロワーの人たちの熱心な発言で活気に満ちた討論がなされたことを録音テープから知ることができた。もちろんこれで環境教育のありかたについての結論が出るわけではない。司会の山田氏の言葉にもあったように、これを基礎にさらに議論を重ねていくことが望まれる。夜の懇親会もわきあいあいで、それぞれに意見交換や情報交換、そして懇親を深めていただけたようである。

二日目の一般報告、関連集会も盛会で、それぞれの会場で研究成果や実践報告が紹介され、これからの環境教育のすすめかた、問題点などが議論されたと聞いている。自分の発表のとき以外、会場にゆっくり腰を落ちつけて聞かせていただく機会を持たず、申し訳なく思うとともに、残念であった。全国から66件の発表（内、1件は残念ながら発表者の体調が悪く、お出でいただけなかった）、7テーマの関連集会はともに環境教育の今日的重要さを示している。これを単なるブームに終わらせないためにも、これからの我々の活動のあり方を考える必要がある。

今回の開催にあたっては学会全体のレベルでの協力（文部省、環境庁、農水省のご後援など）はもちろんのこと、会場をお貸しくださった大阪南YMCA、要旨集の発行に全面的協力をいただいた関西テレビ青少年育成事業団、心よくご後援をいただいた大阪府、大阪市とそれぞれの教育委員会、大会の紹介をしてくださった各新聞社など関西の方々、さらに実行委員をはじめ関西支部会員の方々、アルバイトの学生さんなど多くの方々のご協力をいただいた。ここに改めて感謝の意を表したい。

（実行委員長 鈴木善次）



## 第9回ワークショップ (1991.3.30) 報告

### 消費と環境学習 藤永延代さん (生活協同組合おおさかパルコープ)

おおさかパルコープの前身の一つである大阪しろきた生協の専任理事として活動されてきた藤永さんに、そこでの環境保全に関わる取り組みについてお話していただいた。

—— 運動は「安全な食べ物が欲しい」という組合員の願いからスタートした。本来食べ物は美しい自然環境の中で作られる「環境の産物」である。手間ひまかけて人の体にふさわしく調理されるものである。しかし、現実には輸入食品・加工食品・外食に伴う食品添加物や農薬の問題がある ——

藤永さんは横浜港に出向き自分の目で野積みされた輸入食品の状態を確かめられた。その時に撮られた写真のスライドを見ながら説明された。

—— 異様な臭いのするプラスチック容器の山。蓋の開いた容器の中に変質した塩漬け野菜（漬物の材料）が入っていた。それらの野菜が運ばれていく長野県の漬物工場へも出かけた。輸入食品で加工された山菜が「ふるさとの・・・」と名打って土産店に並ぶ ——

生協では、食品添加物、農薬、輸入食料、食事について学習会が行われている。また、水質を守る活動として、分解性のよい洗剤の開発、淀川を下りながらの水質調査も行ってきた。ゴミ問題を考え牛乳パックのリサイクルにも取り組まれ、回収したパックをトイレットペーパーに加工するルートもつくられた。最後に藤永さんは —— これらの活動を通じて組合員さんが環境問題に目を向けられるようになった。活動自体が環境学習だったんだなあ。そして学習は暮らしの現場、地域に密着した「班」で行われてきたんだなあ —— と結ばれた。

(原 田)

## 第10回ワークショップ (1991.6.15) 報告

### 子どもたちに人間の持つ可能性と限界を悟らせる

—— 文明論の視点からの環境教育 ——

鈴木 善次 (大阪教育大学)

子供達が暮らす現代社会は科学技術が生活の中に深くかかわり合う、いわゆる科学文明社会である。子供達の遊び道具はかつての自然の草花からテレビゲームなど人工的なものへと変化してきている。便利さ、快適さを楽しむ彼らにとっては自然を失ない、人工物に囲まれていることが「自然」なのである。しかし、環境問題の顕現化は科学文明のありかたに再考を促すことになったが、そのことは子供達にも意識の変革を求めることになった。その意識の中身には生物としての人間の限界、文明化した人間の可能性と限界が含まれよう。

そこに教育が登場することになるのであるが、その一つとして、科学・技術・社会の関連性を考えることのできる人々の育成をめざす教育 (STS - Education) があげられる。STS教育はすでにイギリスで1970年代に始まっているが、80年代にはアメリカやカナダなどでカリキュラムづくりなどがなされるようになった。

ところでSTS教育は環境教育と重なる部分が多い。それは今日の環境問題の多くが科学技術と深くかかわっているからである。これら二つの教育に大切なことは知識の押しつけでなく、価値観、意志決定能力の育成である。そして環境倫理の育成である。

# ECOLO人

『環境教育』に虫われて・・・

(財)関西テレビ青少年育成事業団 一村 小百合

“関テレ” “関テレ”と、つい口癖になってしまっている略称。  
少し前、ある子が言った。「“関テレ”って、“関西テレフォンクラブ”のことですか？」一同大爆笑。今まで何気なく使っていた略称がそんなふうになるとは・・・早速厳禁。長ったらしいが、“関西テレビ青少年育成事業団”と、フルネームで呼ぶようにした。「何気なく」から「気づきへ」。少々こじつけがましいが、環境問題もこれに似ている感じがする。

昨年度から当事業団のリーダー研修では、メインテーマとして、『環境教育』を取り上げている。聞き慣れてはいるが、いざ身の回りの改善を、と思ってもなかなか難しい。「物の大切さを知る」「缶を作るのに必要なエネルギーは？」「リサイクル運動を！」講義を聴いてすぐなら実感があり行動も伴うが、時間がたつにつれ、忘れてしまうのも、この『環境教育』のトレンドーさのせいかな、などと無責任に勉強している。

少々言い訳がましいが、今すぐに答えが出る問題ではないと思っている。「ああ、あの時の話にあったことが・・・」とか、「もう少し後先のことを考えて・・・」などという、その時折の気持ちを大切にしておくことが大切な事であろう。取りあえず、“気づきが大切”。そして次は“行動”

現在、当事業団には大学1年から4年生までのリーダ計97名が在籍。今年も引きつづき、このテーマで研修を進めている。一步前進した『環境教育』を実践して行かなくては、すっかり馴染んだ言葉の、奥の奥に触れたいと思っている。

『野外活動は環境教育にどうアプローチできるか』というコンセプトで、この夏のキャンプに臨むためにも、しっかり勉強なくては・・・

これから長生きするためには、どうしても避けて通れぬ問題でもあるのだから。



いちむら さゆり さん

現在、「関西テレビ青少年育成事業団」(KFYD)のディレクターとして、野外活動リーダーの育成を一手に引き受ける大きな存在。大学四年間を通し、野外活動の魅力にとりつかれ、以後この道一筋。一つ一つの事柄に一所懸命取り組む姿がとても美しい。愛称「たまえ」、すてきな笑顔の絶えない魅力的な人物。英語が得意。ポキポキ踊りはもっと得意!?(いつでもリクエストして下さい。)

# 21世紀計画 みんな集まれ!

## 山小屋 (ログハウス) 建設実行委員会をつくりませんか

### 1. はじめに

みんなが自由に使える山小屋 (ログハウス) をつくりませんか。関西近郊の山林を購入し、地域の自然観察の拠点として、また、ささや (一)ながら自然破壊防止の監視基地として、さっぴに、青少年の自然環境教育の場としての山小屋を。

金がない、ヒマもないけれど志は人一倍もっている方、みんなで知恵を出しあってやれば、きっとできると思います。そして、畑を自分たちで開墾し、無農薬野菜などを作ってみたらきっと楽しいと思います。また、障害者の方々も利用できるような山小屋だったら、もっとすてきになるような気がします。

西暦2000年の完成をめざして一緒にやってみませんか。

### 2. 会の名称

21世紀計画・山小屋建設実行委員会 (仮称)

### 3. 内容と目的

① 3か月に1回程度の集まり (年4回)

西暦2000年の完成をめざして、タイムスケジュールの作成。

② 会報紙の作成

情報交換や会員の親睦

③ 年間会費を1000円程度

通信費・会場費等にあてる。

具体的なことは何も決まっています。これからみんなで話しあって、決めていきたいと思っています。

### 4. 対象

学生から社会人・主婦までどなたでも。

### 5. 予定

年内に1回、集会を持つ予定です。11月頃を考えています。

### 6. 連絡先

「おもしろそう」「やってみようかな」と思った方は、はがきで必要事項記入の上、連絡して下さい。第1回目の集会の連絡をさしあげます。集まりには参加できないが、会報紙だけでも希望される方もはがきで連絡して下さい。

### 7. 最後に

日本全国にこのようなログハウスが数多く作られ、自然の乱開発が少しでも防止できれば幸いです。

### 【連絡先】

〒532

大阪市淀川区野中南2-3-10

向山 一信 Tel 06-303-3916

31歳 会社員



# 第一回 環境教育京都フォーラム ご案内

『環境』、という言葉をはひんぼんに目にするようになりました。

その中でも、私たちは自然活動や野外活動を通して、多くの人に“環境や自然を大切に作る心”を持ってもらえればと思っています。さいわい、京都には多くの方々が地道な活動をされ、いくつもの歴史をきざんでおられるとお聞きしています。

そこで、「京都をフィールドに、環境や自然を対象とした教育活動をしている人の交流やネットワークができればすてきだね!」と、第一回京都フォーラムを開催いたします。

環境教育の内容は、自然活動や野外活動だけではなく、多くの分野に及ぶかと思いますが、いろいろな立場からの視点で、多くの方々のご参加をお待ちいたします。

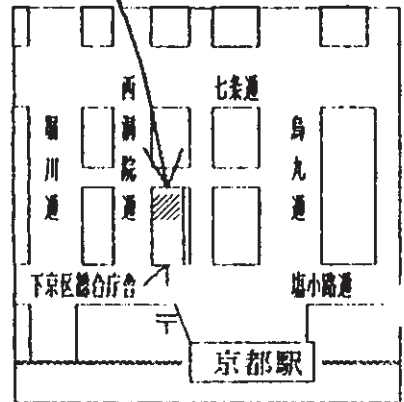
1991年6月20日

日 時 1991年7月12日(金曜日)  
午後7時 ~ 午後9時

場 所 京都市青少年活動センター、第一会議室  
(〒600 京都市下京区西洞院塩小路 上る Tel 343-6626)

内 容 ① はじめに  
② 最近の環境教育の状況について  
③ 皆さんの活動紹介  
④ これからの、京都における環境教育活動の交流について

\* 参加者は、活動内容がわかるものをお待ちください。



事務局……問合せ先・申込み

(財) 京都ユース・ホステル協会

〒616 京都市右京区太秦中山町29 京都市宇野ユース・ホステル内  
Tel 075-462-9185 (担当: 山本)

呼びかけ人 (代表) 久山喜久雄 (法然院「森の教室」)  
山本幹彦 (財・京都ユース・ホステル協会)  
染川香澄 (京都芸術短期大学児童図書館)  
吉岡国久 (財・京都ユース・ホステル協会)  
中西甚五郎



# ネット・ワーク



## (1) 「まちのおもしろ探検隊(4)」

7月24日(水) 8:00 ~ 16:00 対象:小中学生、成人 定員 100名  
参加費 500円(昼食代、材料費、交通費など)

都市のゴミの回収に目を向けて、ゴミの分別の方法とか、回収の苦勞とか、  
ゴミの量の多さなどを実際に体験し、減量の大切さを考える機会とします。  
内容:清掃車のすべて、市内五ヶ所のゴミ回収の体験、調査・まとめ・発表など  
講師:高田 研(スマイル環境教育研究会代表)ほか  
主催・受付・問い合わせ先 豊中市立中央公民館 (☎ 06-866-0555)

## 4 「第二回 ユニトピアささやま自然科学教室」

7月28日(日)~31日(水) (3泊4日)

対象:小学2年生~6年生 定員 40名

参加費 48000円(宿泊費、食費、テキスト代、教材費、授業料など)

私たちが地球環境を守っていくためには、単に自然が美しい、すばらしいということだけでなく、自然を科学的に理解していなければなりません。自然の持つ偉大なしくみを理解し、それを科学・技術として生活環境に生かしていくことのできる子供、科学的知識により、自然を守り、創ることのできる子供を育てることは「自然と人間の共生の時代」に生きる大人たちの義務です。野に咲く一本の花との出会いが、少年を大科学者に育てたように、机上の勉強を重ねるより、自然のすばらしさ、たくみさを体験し、じっと正しく自然を見つめる目を育てることが、本当に親として子供たちに与えるべき教育ではないでしょうか。

内容:野外調査、野鳥・昆虫・植物・天体観察、講話、実験、発表会など  
講師:濱田隆士(東京大学)、石井実(大阪府立大学)、西澤孝(探検家)、  
辻本智子(ユニトピアささやま花の植物園)、月江成人(同)  
主催・受付・問い合わせ先 ユニトピアささやま (担当:山田)

〒669-23 兵庫県多紀郡篠山町矢代 (☎ 0795-52-5220)

## (2) 「第二回 観察共育ワークショップ」

— きみの感性をD(見る) P(こぼす) R(感じる) 六甲山の写真館 —

9月14日(土) 10:00 ~ 9月16日(月) 15:00 (2泊3日)

対象:高校生以上だれでも 定員:40名(定員になり次第、締め切り)

参加費:23000円 場所:大阪YMCA六甲研修センター

僕は毎日の生活のなかで、どんなレンズやフィルターを使い、何に焦点を当てて、どんなアングルやフレーミングでファインダー越しに、周囲の自然や環境を見ているのでしょうか...? 今回はナチュラリスト写真家、森本二郎さんをゲストに招き、「自然大好き写真家はこんな風に感じたり考えたりしているのだ...!」に刺激されて、僕たちが生きている環境や自然のひとこまを切り取り、そこから自然の見方、はたまた自然の味方(ECOLOGICAL?)って何だろう...と考えていただけたらと思います。

主催:大阪YMCA六甲研修センター、聖マーガレット生涯教育研究所(SMILE)  
受付・問い合わせ先 大阪YMCA六甲研修センター

〒657-01 神戸市灘区六甲山町北六甲875 (☎ 078-891-0050) (担当:瀬川)

## 第8回 キャンプ・ワークショップ 事例発表者募集

主催：ユースサービス大阪、大阪市青少年活動協会、大阪YMCA、  
関西テレビ青少年育成事業団、朝日新聞大阪厚生文化事業団

キャンプの指導、運営、企画に携わる青少年育成関係者が、キャンプ・ムーブメントの発展を願って集う「キャンプ・ワークショップ」を、今年も11月9日(土)～10日(日)の1泊2日、大阪YMCA六甲研修センターで実施いたします。今回も多様化するキャンプの事例報告と、グループ討議を中心に、内容の濃いプログラムを組み、年に一度、キャンプ指導者が一堂に会したいと思います。このワークショップでの事例報告者を下記の通り募ります。また、お知り合いの関係者にもお勧めいただくと幸いです。

- 1 事例の対象：青少年の育成や生涯教育、障害者の育成、環境保護などの団体やグループが実践するキャンプの活動。
- 2 発表の条件：発表者は2日間とも必ず参加してください。参加費その他は、一般の参加者と同様です。一人当たりの発表時間は約15分～20分で、その後のグループ討議にも中心として参加してください。事前に発表要旨を規定に従って提出してもらいます。
- 3 発表申込： 所定の用紙に発表者または推薦者が記入の上、次の所に8月31日までにお送りください。
- 4 決定： 申込者が多数の場合は、9月上旬に係で決定の上、本人宛に通知します。
- 5 問い合わせ、申込先： 〒530-11 (住所不要) (☎ 06-201-8008)  
朝日新聞大阪厚生文化事業団 「キャンプ・ワークショップ」係



- ◆関西支部ワークショップ話題提供、エコメール投稿を募集しております。
- ◆ネットワークへの情報提供もよろしくお願い致します。

関西ECOMAIL 第6号 1991年7月1日発行

通信費 年1000円

編集 環境教育学会関西支部世話人会

発行 環境教育学会関西支部

〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 鈴木善次研究室  
(☎06-771-8131 [内線 417])

パソコン通信で原稿を下せる場合は、NIFTY= PFG00460

次回 第7号 1991年9月1日発行予定 原稿締め切り 8月20日